

日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2024年4月9日 火曜日

Oracle CloudのApplication Performance MonitoringのReal User MonitorをAPEXアプリケーションに組み込む

GitHubにoracle-quickstartというリポジトリがあり、そこにOracle Cloudの監視および管理（Observability and Management）に含まれるアプリケーション・パフォーマンス・モニタリング（Application Performance Monitoring）のリアル・ユーザー・モニターをOracle APEXアプリケーションに組み込む方法が紹介されています。

Set up a Real User Monitor for an APEX application with OCI Application Performance Monitoring

<https://github.com/oracle-quickstart/oci-o11y-solutions/tree/main/knowledge-content/oracle-database/APEX/apm>

設定手順がYouTubeのビデオで紹介されていて、その手順に従うと設定できました。ただしAlways Free（無償枠）の範囲だと、ビデオの後半で説明されているカスタム・ダッシュボードの作成とデータベースへのドリルダウンは（データベースのモニタリングが無償ではないため）できないようです。

本記事では、Oracle APEXに関わる設定で確認した内容を紹介します。

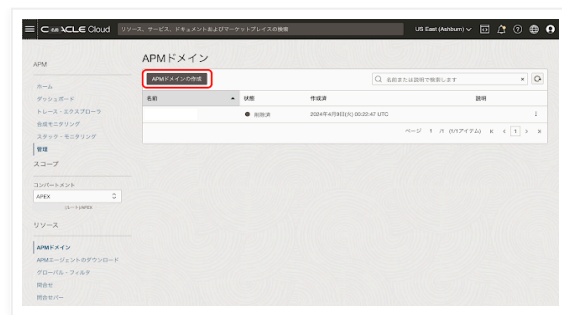
最初にAPMドメインを作成します。

Oracle Cloudのコンソールのメニューより、監視および管理を選択し、アプリケーション・パフォーマンス・モニタリングの管理を開きます。



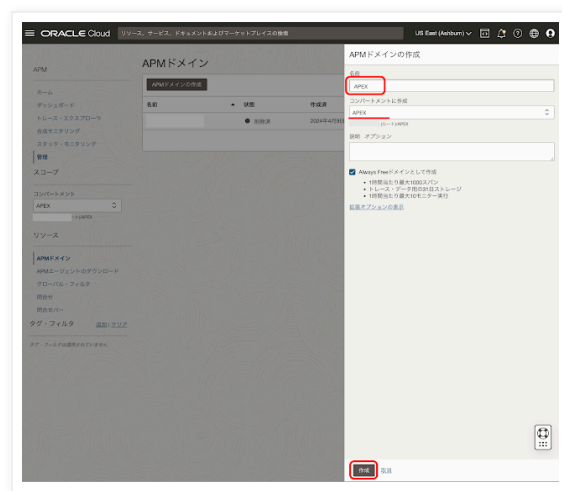
すでに作成済みのAPMドメインがあればそれを利用するか、または新規に作成します。

今回は新規に作成します。APMドメインの作成をクリックします。



作成するAPMドメインの名前は**APEX**とします。無償枠の範囲とするため**Always Freeドメイン**として作成に**チェック**を入れます。

作成する**コンパートメント**を選んで、**作成**をクリックします。



大体、10分弱の時間がかかりましたが、APMドメインとして**APEX**が作成されました。

APMエージェントのダウンロードを開きます。



APEXアプリケーションに組み込むのは**ブラウザ・エージェント**です。

YouTubeのビデオでは、これをコピーしてAPEXのアプリケーションに貼り付けるように案内していますが、GitHubにリアル・ユーザー・モニターのudfAttributesを含んだブラウザ・エージェントの記述があるので、そちらを使います。

ブラウザ・エージェントについて、以下で説明されています。

<https://docs.oracle.com/en-us/iaas/application-performance-monitoring/doc/configure-browser-agent-real-user-monitoring.html>



APEXアプリケーションに移ります。

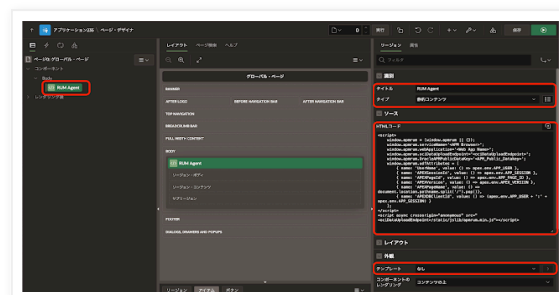
今回はサンプル・データセットの**EMP/DEPT**をインストールしたときに作成できるアプリケーション、**Demonstration - EMP / DEPT**にブラウザ・エージェントを組み込みます。

組み込むブラウザ・エージェントを、以下よりコピペします。

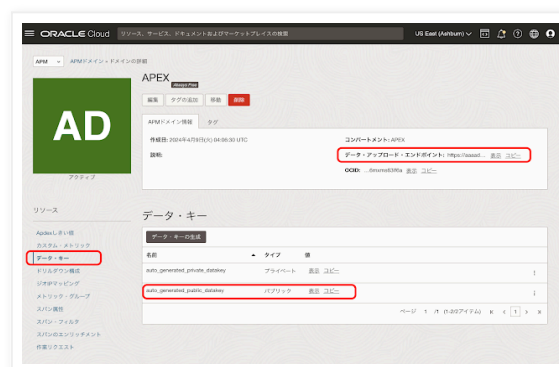
<https://github.com/oracle-quickstart/oci-o11y-solutions/blob/main/knowledge-content/oracle-database/APEX/apm/BrowserAgentScript.html.example>

グローバル・ページを開き、**タイプが静的コンテンツ**のリージョンを作成します。**識別のタイトル**は**RUM Agent**とします。

ソースのHTMLコードに**ブラウザ・エージェント**のコードを記述します。ページにJavaScriptのコードを埋め込むだけで、何も表示する必要はないため、**外観のテンプレートはなし**にします。



作成したAPMドメイン**APEX**の詳細を開き、**データ・アップロード・エンドポイント**と**パブリック・データ・キー**を確認します。これらの値は、ブラウザ・エージェントのコードに埋め込みます。



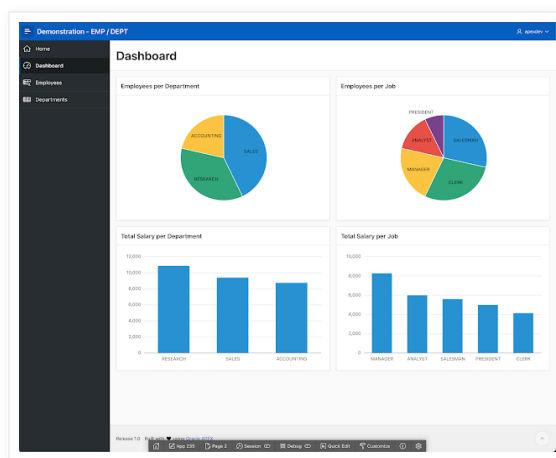
<APM Browser>の部分はAPEX UI、<Web App Name>は**Demonstration - EMP / DEPT**に置き換えます。2箇所ある<ociDataUploadEndpoint>をAPMドメインの詳細画面に記載のある**データ・アッ**

プロード・エンドポイントに置き換え、<APM_Public_Datakey>をパブリック・データ・キーに置き換えます。



以上でAPEXアプリケーションへのブラウザ・エージェントの組み込みは完了です。

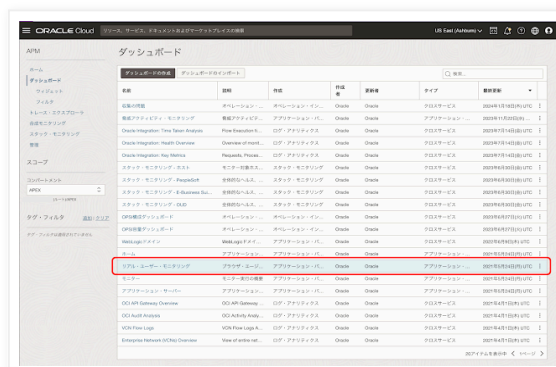
アプリケーションを実行し、色々と操作をします。



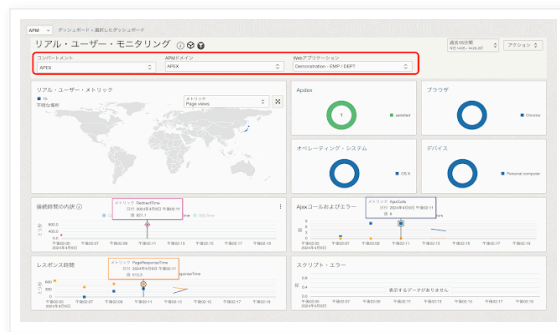
Oracle Cloudのコンソールより**アプリケーション・パフォーマンス・モニタリングのダッシュボード**を開きます。



Oracleが標準で提供しているダッシュボードよりリアル・ユーザー・モニタリングを開きます。



ブラウザ・エージェントから取得した情報がダッシュボードに表示されます。



無償枠の範囲でできることは以上です。

YouTubeのビデオでは、ブラウザ・エージェントの`udfAttributes`に設定した**UserName** (**APP_USER**)、**APEXSessionId** (**APP_SESSION**)、**APEXPagId** (**APP_PAGE_ID**) さらに**APEXDBClientId** (**APP_USER:APP_SESSION**はデータベースの**V\$SESSION**の列**CLIENT_IDENTIFIER**に設定されるため、この値を使ってDBの情報をドリルダウンできます)などの情報を使った、カスタムのダッシュボードの作成やデータベースの情報の参照方法を紹介しています。

完

Yuji N. 時刻: 14:35

共有



ホーム



[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.